

院長就任の挨拶

河村 哲治



令和3年4月に和田先生の後任として姫路医療センター院長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

さて私が京都大学呼吸器内科（当時の胸部疾患研究所）より前身の国立姫路病院に赴任したのは、昭和63年（1988年）4月、今から33年前のことでした。当時は癌の告知などもってのほかであり、家族にだけ厳しい予後をお伝えし、本人にはとにかく治療しましょうと言うだけの時代でした。今とは比べものにならない画質のCT、数少ない抗癌剤、インターネットもなければガイドラインもなく、PET-CT、ゲノム医療、免疫療法といった最新の医療は当時と隔世の感があります。

とはいえ、医療を行う側も受ける側も「人間」という存在に変わりはありません。習得すべき知識や技術が増えることにより医療従事者の負担ははるかに大きくなっていますが、患者さんやその家族、あるいは医療従事者間でのコミュニケーションの重要性は今も変わっていないはずです。

院長として、地域医療の発展はもとより、院内院外を問わず医療従事者の皆さんが気持ちよく診療に携われるよう、微力ながら貢献していきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

安心で安全な 医療の提供を目指して

理
念

思いやりのある最善の医療を提供し、患者さんと地域、社会に貢献します。

基
本
方
針

1. 地域の中核病院として、高度の医療を提供するとともに他の医療機関との連携を推進します。
2. 救急医療に積極的に取り組みます。
3. 良質な医療を提供するため、健全な経営に努めます。
4. 医師、看護師をはじめ医療従事者の教育研修に努めます。
5. 医学、医療の進歩に貢献すべく臨床研究を進め、正しい医療知識の地域への発信を目指します。

副院長着任のご挨拶

黒田 暢一



令和元年春に急な人員減となった外科の体制を整えるべく同年7月、当院に赴任致しました。幸い地域の皆様の支えによりお陰様で再び地域の期待に十分にお応えできる体制を整える事ができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。それで一息ついたのも束の間、この度副院長の職を拝命致しました。

我々が病院機能を高め地域の方々の健康、幸福に貢献するためには、病院内で働く全ての職種が気持ちよく、他者の事情も理解しながら「各自がその本分を尽くす」事ができる環境を整えていく事が必須であり、その指揮官が副院長であると考えています。そうする事が、地域の先生のご要望に応える事ができる体制向上の近道だと考えています。もちろん主役である患者およびその家族の声は何にもまして大切であり、これまで以上にその声に耳を傾け、改善改革を行って参ります。

折しも新型コロナウイルスの再拡大、2022年の新県立病院の開院、2024年に迫った医師の働き方改革の実践など課題は山積していますが、これらにも日々取り組みつつ診療の質と量の向上を図って参ります。またコロナ禍で一気に身近になったオンライン会議に代表されるインフォメーションテクノロジーの活用により、これまで以上に開かれた地域連携の道も積極的に探りたいと思っています。

当院へ赴任してはや2年ですが、新型コロナウイルスによりお会いできる機会も少なく、地域の先生との面識も未だ不十分な事を申し訳なく思います。新型コロナウイルスの状況を見つつ、一人でも多くの先生と直接お会いしご意見、ご要望をお伺いし、今まで以上に地域に密着した医療を提供し続けるよう取り組んでいく所存です。どうかよろしくお願い申し上げます。

統括診療部長着任のご挨拶

岩村 博史



令和3年4月より統括診療部長を拝命いたしました岩村博史と申します。

専門は泌尿器科で、昨年度までは外科系診療部長として主に手術室の運営、調整役を任されていましたが、今年度からはさらに内科系も含めた診療部全体の管理をお願いしたいとの依頼を受け、今更ながらその責任の重大さを痛感しているところであります。

振り返りますと1989年に大学病院泌尿器科に入局、2005年に前任の神戸市立中央市民病院より当院への赴任を打診され、それからすでに早16年が経過し医師としてのキャリアの半部を当院で勤務したことになります。

この間当院を取り巻く環境も少しずつ変化し、中でも来年度に迫った近隣への新県立病院の移転問題、そして一昨年末に中国武漢から発生し瞬く間に全世界に広がった新型コロナウイルスへの対応と、少し前には想像すらできなかったことが今現実起きています。今こそ、新院長の舵きりのもと職員一致団結してこの困難を乗り越えねばと考えています。

一方、私の専門である泌尿器科においては一昨年に手術支援ロボット「ダヴィンチXi」が導入されたことにより前立腺がんの根治手術は急増し、また丸田放射線科部長の尽力により既に実績のある強度変調放射線治療（IMRT）においては、根治性を維持しながら放射線性直腸炎をより減らすべく前立腺との間にスペーサーを挿入する準備もようやく整い、昨今急増している前立腺がんにおいては最先端の医療を姫路でも提供できるようになりました。

先述の通り当院を取り巻く環境は厳しい時代を迎えますが、これからも安全で良質な医療を提供できるよう職員一同尽力いたしますので、地域の先生方におきましてはこれまでと同様ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

診療科紹介 放射線診断科

日頃より患者様の画像検査をご依頼いただき、ありがとうございます。

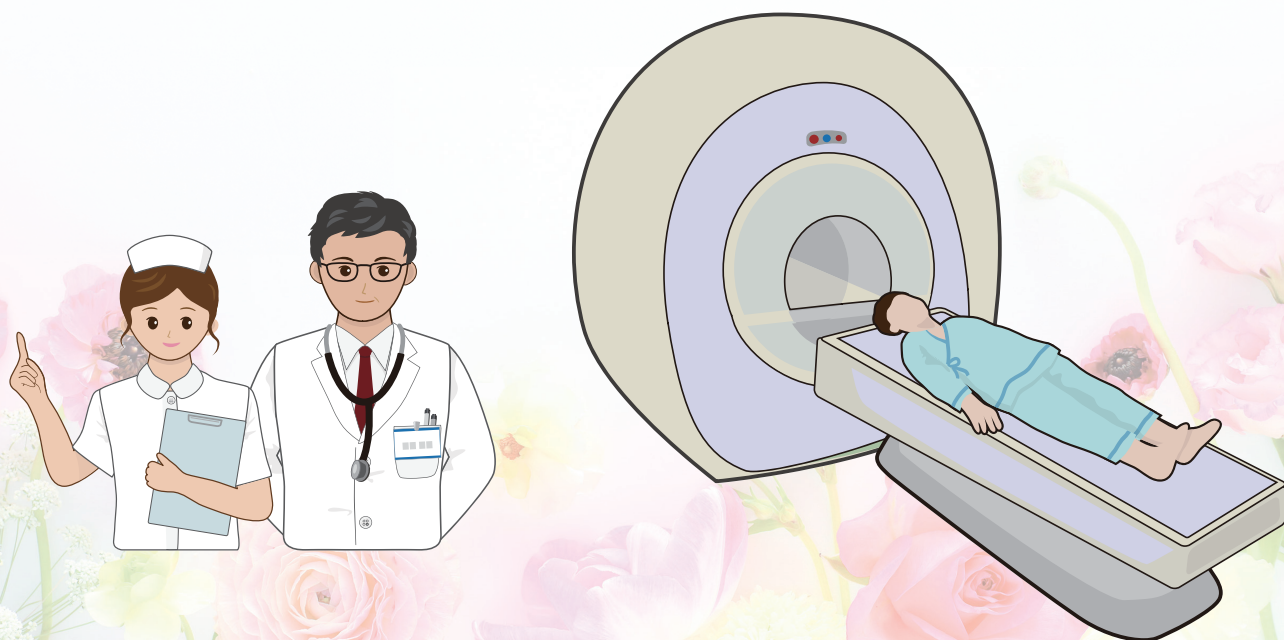
当科は令和3年5月現在、常勤医師4名、非常勤医師1名の計5人態勢で読影およびIVR（interventional Radiology:画像支援下治療）を行っています。すべての医師が経験を積んだ診断専門医であり、これまでに得た知識と広い視野で先生方の診療に役立てるよう、日々精進しております。正確な診断を期するために撮影方法やタイミングを検討することも重要ですので、ご指定がない場合はこちらの判断で最適な条件で撮影させていただきます。検査画像と読影レポートは会計と同時にお渡しできるよう、迅速に対応します(PET-CTのみ翌日)。安心してご紹介ください。

IVRに関しては、現在経験豊富なIVR専門医が在籍しております。各種癌への局所動注塞栓術や緊急止血術などはよく知られていますが、子宮筋腫や前立腺肥大症に対する動脈塞栓術、有痛性骨転移に対する血管内治療および骨セメントなども有用とされています。透析シャントの血管形成なども可能です。治療適応も含めてお気軽にご相談いただけたらと思います。

このご時世で大きな病院に行くのは不安・・・という患者様もおられるかもしれません。当院もコロナ専用病棟は稼働していますが、コロナに罹患した患者様の検査は通常検査が終了した時間帯に、厳格な隔離体制で行っております。通常診療の患者様と鉢合わせすることはありません。患者様への説明のご参考にしてください。

猛威を振るうCOVID-19により姫路市内でも医療崩壊の声が聞こえる現状で、地域医療を支える先生方の心労たるや、大変なものであらうと想像しております。人間ドックや検診といった予防医学の分野の優先度が下がるなか、それでも特に癌領域では早期発見・早期診断が患者様にとっては必要であることに変わりはありません。日常診療の中で、少しでも気にかかることがおありでしたら、お気軽に当科の画像検査をお役立ていただけたらと思っております。

わたしたちは普段、患者様を目の前にして診療することはありません。しかし、目の前で困っている、苦しんでいる患者様に対峙しておられる臨床科の先生方の背中を見つめているつもりです。わたしたちの診断およびIVRが、先生方が日常診療をされる中での有効なツールとなり、正確な診断やよりよい治療につながりますことを願っています。



病棟の紹介 A-2 病棟

A-2病棟は外科・乳腺外科の病棟で40床あります。有料個室は8床、重症個室4床があります。昨年より新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、手術を受ける患者様にも少なからず影響を及ぼしています。少しでも安心して治療を受けていただけるように、手術治療を受けられる患者様には手術前のPCR検査の実施、手術前2週間の体温測定の協力をお願いしています。また、入院後にご家族を含めた面会の制限をお願いしています。このような徹底した予防策のおかげで、現在は予定している手術はすべて実施することができています。

当病棟の主な入院目的は手術治療44%、化学療法24.5%、その他31.5%となっています。その他には消化器内科の検査入院や抗生剤等の薬物治療を目的とした入院、緩和医療を目的とした入院もあります。外科手術のほとんどは内視鏡を使用した腹腔鏡下手術で、ロボット支援（ダビンチ）を使用した手術も増えています。昨年度はコロナ禍ではありますが約600件の手術があり、主な手術は、大腸切除術127件、胃切除術53件、膵臓切除術16件、胆嚢摘出術115件、乳腺手術85件、その他となっています。

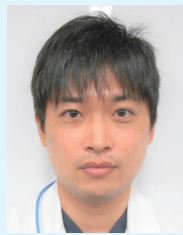


～パウチ交換の様子～

手術を受けられる患者様の中には人工肛門を造設する必要がある方がおられます。どのようなものなのか、説明を聞くだけではイメージが付きにくい事もあります。「手術後どのように排泄行動が変わるのか?」、「お手入れの方法は?」、「自宅ではどうすればいいのか?」、「高齢のためうまくケアできるか心配。」、「外出の時はどうすればいいのか?」、「食事は食べられるのか?」など様々な不安を抱えておられます。少しでも不安が軽減でき手術に望めるように、他職種と連携を行っています。パウチ交換時には皮膚トラブルがないか、パウチの種類は合っているかなど日々観察し（写真1参照）、皮膚排泄ケア認定看護師と連携し、スキんケア方法の検討、必要な装具の選定を行っています。また、地域医療連携看護師と退院後の生活を見据えて地域の訪問看護師、ケアマネージャーと連絡を取り合います。病棟薬剤師に排便コントロールのための薬の調整や、管理栄養士に食事についての説明をしてもらえるように調整しています。

病棟看護師は、術前・術後、退院に向けて患者様の状態の変化にいち早く気づけるように日々コミュニケーションを取りながら看護を行っています。少しでも安心できる環境を提供できるよう、知識、技術の向上を目指して病棟全体で取り組んでいます。

4 月新採用職員紹介



今年度より外科で勤務させていただきます河瀬 信と申します。以前は岡山県の倉敷中央病院に勤務しておりました。地域の皆様のお力になれるよう精一杯努めて参ります。よろしくお願いいたします。

消化器外科 河瀬 信



呼吸器外科医師の印藤（いんどう）です。肺癌・気胸・膿胸などお気軽にご相談ください。

呼吸器外科 印藤 貴士



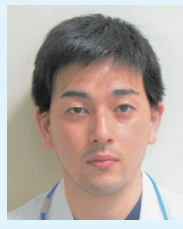
呼吸器外科の上田聡司と申します。姫路の医療に少しでも貢献出来るよう努めて参りますので何卒よろしくお願いいたします。

呼吸器外科 上田 聡司



消化器内科の赤路啓と申します。後期研修を終え、4月から常勤職員として勤務することとなりました。地域医療に貢献出来るよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

消化器内科 赤路 啓



4月より内科専攻医として勤務させていただくこととなりました武智 龍之介と申します。姫路赤十字病院で初期研修および内科専攻医の1年間を終え、現在に至ります。まだまだ未熟ではございますが、少しでも姫路の医療に貢献できるように精進して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

内科(専攻医) 武智 龍之介



本年4月より赴任して参りました村上 幹樹と申します。まだまだ未熟ではありますが、少しでも姫路の医療に貢献できるように精進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

消化器外科(専攻医) 村上 幹樹



令和3年4月に耳鼻咽喉科専攻医として勤務しております上田隆と申します。以前は北播磨総合医療センターで勤務しておりました。微力ではございますが姫路の医療に貢献できるよう最善を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科(専攻医) 上田 隆

中播磨がん診療連携協議会 がん看護事例検討会のご案内



姫路医療センターと姫路赤十字病院からなる中播磨がん診療連携協議会が地域連携医療機関の看護師を対象に事例検討会を開催いたします。令和2年度はコロナ禍で中止となっておりましたが、令和3年度はWebでの開催となりました。

この研修会は、がん看護の質の向上、そして地域の看護師のネットワーク作りの機会となることを目的としております。ご参加お待ちしております。

日 時：令和3年 7月 9日（金） 18：30～20：00
令和3年 9月10日（金） 18：30～20：00
令和3年11月12日（金） 18：30～20：00

会 場：Web (teams) 開催

対 象：中播磨地域で働く看護師 ※上記全て参加できる方

募集人数：15名程度

企画運営：姫路医療センターおよび姫路赤十字病院看護部

参加を希望される方は、お手数ですが令和3年6月11日（金）までに下記QRコードにアクセスの上、お申込みください。なお、お申込み多数の場合はお断りすることがございますのでご了承ください

アドレス；<https://docs.google.com/forms/d/1IDgOc731oTJqGnCdC7r4es6lqCVHgj2fEVP8rBrsi2A/edit>



参加決定の方には、申込み締切後6月18日（金）までに登録証をお送りします。お申込み時に、連絡のとれるメールアドレスを登録していただくようお願いします。

不明な点がございましたら、下記連絡先までお問い合わせください。

連絡先：姫路医療センター 緩和ケア病棟 銅山 慶子
〒670-8520 姫路市本町68番地
電 話：079-225-3211（代表）

編集
後記

令和3年度がスタートし、多くの新しい職員を迎えることができました。新院長の下、心機一転、ますます地域の医療に貢献出来る病院を目指してまいりますので、今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。